

tovo

トヴォ

PLUS

あおもりの100家族、わたしたちのこれから。

SEASON 1

www.tovo2011.com

toVO トヴォ
PLUS

www.tovo2011.com



NO. **000**
20120311

あおもりから ちいさなおたより トヴォプラス





インタビュー

今号のご家族 ▶ 齊藤準悦さん・齊藤順子さん・齊藤麻綾ちゃん

撮影場所 ▶ 菊ヶ丘運動公園(五所川原市)

●2011年3月11日は何をしました? ▶ 準悦さん「近所のリサイクルショップにいて仕事で使う景品を探してましたね。」 順子さん「勤務先の病院にいて病院の床が波打ってビックリしました。」 麻綾ちゃん「保育園にいたんだけど車で家に帰って懐中電灯持って携帯でニュース観てた。」 ●震災以降、家族で何か話し合ったりしました? ▶ 準悦さん「家族で集合場所は決めたんですよ。公民館なんですけど(笑)」 順子さん「非常食とか懐中電灯とか備えたり、人ごとじゃなく自分のこととして現実的に考えるようになりましたね。」 ●家族の中で変化はありました? ▶ 順子さん「あの日ってストーブも電気もないしで、普段一緒にいることはない祖父含めてみんなで1つの部屋で過ごすことになって、普段話さないことを話したり、なんか良い経験でしたね。」 準悦さん「そうだね。だからって以降家族の関係が表面的に変わったわけじゃないけど、でも、気持ちの中では確かに変化があったと思う。」 順子さん「あと、ご近所さんとの付き合いは大切だなと思いました。」 ●子育ては変わりました? ▶ 準悦さん「うーん、変わらないかなあ。でも、あの震災でたくさんの方が亡くなったんだってことはちゃんと説明してますね。子どもを亡くした人もいるし、親を亡くした子もいるし。人は簡単に死んじゃうってのは話してますね、意味分かってないかもしれないけど(笑)」 麻綾ちゃん「百歳まで生きたーい(笑)」 ●理想の家族像? ▶ 「子どもが成人して、1人でちゃんと生きていけるように育つ家庭。」 順子さん「理想の家族は、"うっかりベネロベ"の家族」 ●10年後は? ▶ 準悦さん「年に1回か2回は旅行行けたらいいなあ。子どもは勉強も部活もちゃんとやってる子になってたらいいですね。」 順子さん「すごいセレブになってたりして(笑)!!」 **終**

東日本大地震・津波遺児チャリティー

tovo トヴォ

2011年6月～2012年2月29日まで

¥411,673

を「あしなが東日本大地震・津波遺児募金」へ寄付することができました。ご協力に感謝いたします。

【代表】 小山田 和正

【住所】 〒037-0056 青森県五所川原市末広町14-1

【website】 <http://www.tovo2011.com>

【email】 info@tovo2011.com

【twitter】 @tovo2011

【facebook】 <http://www.facebook.com/tovo2011>

今号のご家族▶齊藤準悦さん・齊藤順子さん・齊藤麻綾ちゃん
撮影場所▶菊ヶ丘運動公園(五所川原市)

【インタビュー】

●2011年3月11日は何をしてました？

- ▶準悦さん「近所のリサイクルショップにいて仕事で使う景品を探してましたね。」
- ▶順子さん「勤務先の病院にいて病院の床が波打っててビックリしました。」
- ▶麻綾ちゃん「保育園にいたんだけど車で家に帰って懐中電灯持って携帯でニュース観てた。」

●震災以降、家族で何か話し合ったりしました？

- ▶準悦さん「家族で集合場所は決めたんですよ。公民館なんですけど(笑)」
- ▶順子さん「非常食とか懐中電灯とか備えたり、人ごとじゃなく自分のこととして現実的に考えるようになりましたね。」

●家族の中で変化はありました？

- ▶順子さん「あの日ってストーブも電気もないしで、普段一緒にいることはない祖父含めてみんな
で1つの部屋で過ごすことになって、普段話さないことを話したり、なんか良い経験でしたね。
」
- ▶準悦さん「そうだね。だからって以降家族の関係が表面的に変わったわけじゃないけど、でも、
気持ちの中では確かに変化があったと思う。」
- ▶順子さん「あと、ご近所さんとの付き合いは大切だなと思いました。」

●子育ては変わりました？

- ▶準悦さん「うーん、変わらないかなあ。でも、あの震災でたくさんの人が亡くなったんだってこ
とはちゃんと説明してますね。子どもを亡くした人もいるし、親を亡くした子もいるし。人は簡
単に死んじゃうってのは話してますね、意味分かってないかもしれないけど(笑)」
- ▶麻綾ちゃん「百歳まで生きたーい(笑)」

●理想の家族像？

- ▶準悦さん「子どもが成人して、1人でちゃんと生きていけるように育つ家庭。」
- ▶順子さん「理想の家族は、"うっかりペネロペ"の家族」

●10年後は？

- ▶準悦さん「年に1回か2回は旅行いけたらいいなあ。子どもは勉強も部活もちゃんとやってる子
になってたらいいですね。」

▶順子さん「すごいセレブになってたりして(笑)！」

【寄付総額】

2011年6月～2012年2月29日まで『¥411,673』を「あしなが東日本大地震・津波遺児募金」へ寄付することができました。ご協力に感謝いたします。

toVO トウゴ
PLUS

www.tovo2011.com



NO. 001
20120411

あおもりの100家族、わたしたちのこれから。





インタビュー

今号のご家族 ▶ 大澤公生さん・優子さん・美聡ちゃん・和将くん
撮影場所 ▶ 青森県営 浅虫水族館 (青森市)

●2011年3月11日は何をしました? ▶ 公生さん「いつも通り診療をしてました。揺れたな、長いな、で、停電になって。結局ナメてたんですよ。でも、だんだんいつもと違うなと。家はオール電化で、もう何にもすることがなくて、寒いし、もう寝ようって。」 優子さん「その日は美聡のクラスがインフルエンザで学級閉鎖で家にいたんです。で、地震が起こって、停電で動かなくなった信号の中、焦るな焦るなって、保育園に和将を迎えに行き、家に帰ってきたのはいいんだけど、カセットコンロのカセットはなく、ラジオを聞きたくても電池がなく、みんなで寒いね一つ。」 優子さん「そうそう、その夜、美聡が『ママ、夜って暗いんだね。静かなんだね。お星様がよく見えるよ。』って言ったんです。その言葉はよく憶えていますね。」 ●震災以降、家族で何か話し合ったりしました? ▶ 優子さん「後輩が震災で亡くなって、お葬式に行く時、その時は家族みんなでいったんです。途中、車の中で人生の優先順位ってことを話しましたね。」 公生さん「いろいろな立場があるけど欲張ってたらキリがなくて、その時に『家族』だろって決めたんです。家族には私しかいないから。」 ●家族の中で変化はありました? ▶ 公生さん「当たり前で電気がついて、お酒を呑んで、ご飯を食べて、当たり前のことの有り難さを感じて、それに感謝して、それを言うってことですね。」 優子さん「実はチャリティーとかボランティアは私の人生にないって思ってた、でも、震災で後輩が亡くなって、何を考えて生きてたんだろう?って。人としてってことを考えるようになりました。」 ●10年後は? ▶ 公生さん「自分が生まれた青森が元気になるればいいし、自分の立場でそれに向かって頑張っていきます。子どもたちには困った人に手を差し伸べられる人。仲間を大事にして自立して欲しいですね。」 優子さん「青森にはこだわりたい、青森発信の何か、そう、やっぱり青森が元気になる方がいいですね。子どもたちには、人として正しく生きて欲しい。」 美聡ちゃん「人を助ける仕事をしたい。」 和将くん「青森のさがなくん!!」 終

東日本大地震・津波遺児チャリティー

TOVO トヴォ

2011年6月～2012年3月31日まで

¥502,974

を「あしなが東日本大地震・津波遺児募金」へ寄付することができました。ご協力に感謝いたします。

【代表】 小山田 和正
【住所】 〒037-0056 青森県五所川原市末広町14-1
【website】 <http://www.tovo2011.com>
【email】 info@tovo2011.com
【twitter】 @tovo2011
【facebook】 <http://www.facebook.com/tovo2011>

今号のご家族▶大澤公生さん・優子さん・美聡ちゃん・和将くん

撮影場所▶青森県営 浅虫水族館(青森市)

【インタビュー】

●2011年3月11日は何をしました？

▶公生さん「いつも通り診療をしてました。揺れたな、長いな、で、停電になって。結局ナメてたんですよね。でも、だんだんいつもと違うなと。家はオール電化で、もう何にもすることがなくて、寒いし、もう寝ようって。」

▶優子さん「その日は美聡のクラスがインフルエンザで学級閉鎖で家にいたんです。で、地震が起こって、停電で動かなくなった信号の中、焦るな焦るなって、保育園に和将を迎えに行って、家に帰ってきたのはいいんだけど、カセットコンロのカセットはなく、ラジオを聞きたくても電池がなく、みんなで寒いねーって。」

▶優子さん「そうそう、その夜、美聡が『ママ、夜って暗いんだね。静かなんだね。お星様がよく見えるよ。』って言ったんです。その言葉はよく憶えてますね。」

●震災以降、家族で何か話し合ったりしました？

▶優子さん「後輩が震災で亡くなって、お葬式に行く時、その時は家族みんなで行ったんです。途中、車の中で人生の優先順位ってことを話しましたね。」

▶公生さん「いろいろな立場があるけど欲張ってたらキリがなくて、その時に『家族』だろって決めたんです。家族には私しかいないから。」

●家族の中で変化はありました？

▶公生さん「当たり前で電気がついて、お酒を呑んで、ご飯を食べて、当たり前のことの有り難さを感じて、それに感謝して、それを言うってことですね。」

▶優子さん「実はチャリティーとかボランティアは私の人生にないって思ってた、でも、震災で後輩が亡くなって、何を考えて生きてたんだろう？って。人としてってことを考えるようになりました。」

●10年後は？

▶公生さん「自分が生まれた青森が元気になればいいし、自分の立場でそれに向かって頑張っていきます。子どもたちには困った人に手を差し伸べられる人。仲間を大事にして自立して欲しいですね。」

▶優子さん「青森にはこだわりたくて、青森発信の何か、そう、やっぱり青森が元気になればいいですね。子どもたちには、人として正しく生きて欲しい。」

▶美聡ちゃん「人を助ける仕事をしたい。」

▶和将くん「青森のさかなくん!!」

【寄付総額】

2011年6月～2012年3月31日まで、『¥502,974』を「あしなが東日本大地震・津波遺児募金」へ寄付することができました。ご協力に感謝いたします。

toVO トウゴ
PLUS

www.tovo2011.com



NO. 002
20120511

あおもりの100家族。わたしたちのこれから。





インタビュー

今号のご家族 ▶ 對馬直哉さん・郁子さん・亜夢ちゃん・未夢ちゃん
撮影場所 ▶ トランポリンアカデミー (五所川原市)

●2011年3月11日は何をしました? ▶ 直哉さん「夜勤明けで家にいました。学校に行ってた亜夢以外は、3人で家にいたんですね。ドア開けろ!とか、テレビ押さえろ!とかやりましたね。」 郁子さん「その後に余震や停電が何度もあったので、もう記憶がゴチャゴチャ(笑)」 亜夢ちゃん「ちょうど家庭科室の掃除をして、上から吊るしてたテレビがグラグラ揺れて、放送が使えないから教頭先生が走りまわって体育館に皆を集めて、登校班と同じ様にして皆で帰ってきて。怖かった…」 未夢ちゃん「うーん、ろうそくの火は憶えてる。」 直哉さん「ストーブがなくて、停電で調理もできなかったの、実家に家族3人を置いて、職場である病院に向かいました。病院では停電で大変なことになってましたね。」

●震災以降、家族で何か話し合ったり、何か変化はありました? ▶ 直哉さん「家族で特に話し合ったりはなかったですね。ただ町内では災害時の避難場所などの確認はしました。」 郁子さん「そうですね、家族で話し合ったりはなかったですね(笑)」 亜夢ちゃん「担任の先生から、これから6年生になるから、災害などがあつたら高学年として低学年の面倒をみるようにって言われて、それを心がけようと思ってます。」

●10年後は? ▶ 直哉さん「家族が各々好きなことを自分の責任のもとにやって自立してたらいいかな。」 郁子さん「子どもたち2人には自分で好きなことを選んで、自分の道を進んでいて欲しいですね。家族で何かっていったら何もありません(笑)」 亜夢ちゃん「うーん…」 未夢ちゃん「勉強…」

直哉さん「未夢は素直で一番思い通りに生きるタイプなので心配してないですね。亜夢は凝り性なので、それが良い面に出てくれたらいいと思います。」 直哉さん「あ、そういえば、今まで家族の写真を携帯の待ち受けにしたことなかったんですけど、最近は家族の写真を待ち受けにしていますね。一番守らなければいけないのは家族なのかなあって、1年経って思ったんだと思います。守られてる感あるでしょ?」 郁子さん・亜夢ちゃん・未夢ちゃん「えええー!?!」 **終**

東日本大地震・津波遺児チャリティー

TOVO トヴォ

2011年6月～2012年5月8日まで

¥600,766

を「あしなが東日本大地震・津波遺児募金」へ寄付することができました。ご協力に感謝いたします。

【代表】 小山田 和正
【住所】 〒037-0056 青森県五所川原市末広町14-1
【website】 <http://www.tovo2011.com>
【email】 info@tovo2011.com
【twitter】 @tovo2011
【facebook】 <http://www.facebook.com/tovo2011>

今号のご家族▶對馬直哉さん・郁子さん・亜夢ちゃん・未夢ちゃん

撮影場所▶トランポリンアカデミー(五所川原市)

【インタビュー】

●2011年3月11日は何をしました？

▶直哉さん「夜勤明けで家にいました。学校に行ってた亜夢以外は、3人で家にいたんですね。ドア開けろ！とか、テレビ押さえろ！とかやってましたね。」

▶郁子さん「その後に余震や停電が何度もあったので、もう記憶がゴチャゴチャ(笑)」

▶亜夢ちゃん「ちょうど家庭科室の掃除をしてて、上から吊るしてたテレビがグラグラ揺れて、放送が使えないから教頭先生が走りまわって体育館に皆を集めて、登校班と同じ様にして皆で帰ってきて。怖かった...。」

▶未夢ちゃん「うーん、ろうそくの火は憶えてる。」

▶直哉さん「ストーブがなくて、停電で調理もできなかったのも、実家に家族3人を置いて、職場である病院に向かいました。病院では停電で大変なことになってましたね。」

●震災以降、家族で何か話し合ったり、何か変化はありました？

▶直哉さん「家族で特に話し合ったりはなかったですね。ただ町内では災害時の避難場所などの確認はしました。」

▶郁子さん「そうですね、家族で話し合ったりはなかったですね(笑)」

▶亜夢ちゃん「担任の先生から、これから6年生になるから、災害などがあったら高学年として低学年の面倒をみるようにって言われて、それを心がけようと思ってます。」

●10年後は？

▶直哉さん「家族が各々好きなことを自分の責任のもとにやって自立してたらいいかな。」

▶郁子さん「子どもたち2人には自分で好きなことを選んで、自分の道を進んでいて欲しいですね。家族で何かっていったら何もないです(笑)」

▶亜夢ちゃん「うーん...」

▶未夢ちゃん「勉強...」

▶直哉さん「未夢は素直で一番思い通りに生きるタイプなので心配してないですね。亜夢は凝り性なので、それが良い面に出てくれたらイイなと思います。」

▶直哉さん「あ、そういえば、今まで家族の写真を携帯の待ち受けにしたことなかなかったんですけど、最近は家族の写真を待ち受けにしていますね。一番守らなければいけないのは家族なのかなあって、1年経って思ったんだと思います。守られてる感あるでしょ？」

▶郁子さん・亜夢ちゃん・未夢ちゃん「えええー！？」

【寄付総額】

2011年6月～2012年5月8日まで、『¥600,766』を「あしなが東日本大地震・津波遺児募金」へ寄付することができました。ご協力に感謝いたします。

toVO トヴォ
PLUS

www.tovo2011.com



NO. 003
20120611

あおもりの100家族。わたしたちのこれから。





インタビュー

今号のご家族 ▶ 最上 泰 澁 さん・裕 加 さん・嵩 埜 くん

撮影場所 ▶ 道の駅いなかだて「弥生の里」(田舎館村)

●2011年3月11日は何をしました? ▶ 裕加さん「私はお母さんと家の3階にいて、すごく揺れて、すごく怖くて、お父さんがいつも下にいるので、みんなでそこで固まってました。」泰澁さん「ちょうど弘前で会議の最中だったんですけど、すぐに家に電話をして無事を確認して、信号がなくなかって渋滞した道を運転して帰ってきました。」泰澁さん「家に帰ってきて、これは長期間続くかもって感じたので、様子を見つつ、近くのスーパーに食料を買いにいった、夕飯はありあわせのものを食べて…」裕加さん「あとは、夜は暗いし、寒いし、状況もよく分からないし、早く寝ようって。」

●震災以降、家族で何か話し合ったり、何か変化はありました? ▶ 泰澁さん「この子がまだお腹の中にいたので、まあ、自分たちのことだけ考えてるみたいになっちゃうんですけど、夫婦では、この子が無事に生まれてきて欲しいなって話はしましたね。」裕加さん「家族では、節電しよう!とか(笑)」泰澁さん「水や懐中電灯や常備袋を用意したりしましたけど、やっぱり、出産をひかえていたので、お腹の中の子どもを中心に考えてましたね。」裕加さん「なんとか無事に終わるまでは!って。」泰澁さん「たとえ停電になっても!って(笑)」 ●お腹の中に4ヶ月の子どもがいたんですね?

▶ 裕加さん「ちょうどお腹が出てきた頃で、お腹の中に子どもがいるって思うと、食べ物や水は気をつけなきゃって思っていました。特に産地なんかは気をつけた方がいいのかなと。」泰澁さん「出産の時は誰でも心配するんですけど、奇跡的にやっとなってきた子どもだったし、そこへきての震災で、いろいろ過度な心配はしましたね。」 ●10年後は?

▶ 泰澁さん「10年後って想像がつかないですけど、家族で心は繋がっていて欲しいなと思います。」裕加さん「実家が神奈川県なんですけど、子どもも生まれたいし、ここに根を張りたいたいなと思ってます。家族みんなで笑ってたいですね。あと、子どもが安心して笑顔でいられるように自分も強くななきゃって思います。恐妻家とは違うけど(笑)」 終

東日本大地震・津波遺児チャリティー

TOVO トヴォ

2011年6月～2012年6月15日まで

¥702,177

を「あしなが東日本大地震・津波遺児募金」へ寄付することができました。ご協力に感謝いたします。

【代表】 小山田 和正

【住所】 〒037-0056 青森県五所川原市末広町14-1

【website】 <http://www.tovo2011.com>

【email】 info@tovo2011.com

【twitter】 @tovo2011

【facebook】 <http://www.facebook.com/tovo2011>

今号のご家族▶最上泰滉さん・裕加さん・嵩埜くん
撮影場所▶道の駅いなかだて「弥生の里」(田舎館村)

【インタビュー】

●2011年3月11日は何をしてました？

- ▶裕加さん「私はお母さんと家の3階にいて、すごく揺れて、すごく怖くて、お父さんがいつも下にいるので、みんなでそこで固まってました。」
- ▶泰滉さん「ちょうど弘前で会議の最中だったんですけど、すぐに家に電話をして無事を確認して、信号がつかなくなって渋滞した道を運転して帰ってきました。」
- ▶泰滉さん「家に帰ってきて、これは長期間続くかもって感じたので、様子を見つつ、近くのスーパーに食料を買いにいった、夕飯はありあわせのものを食べて・・・」
- ▶裕加さん「あとは、夜は暗いし、寒いし、状況もよく分からないし、早く寝ようって。」

●震災以降、家族で何か話し合ったり、何か変化はありました？

- ▶泰滉さん「この子がまだお腹の中にいたので、まあ、自分たちのことだけ考えてるみたいになっちゃうんですけど、夫婦では、この子が無事に生まれてきて欲しいねって話はしましたね。」
- ▶裕加さん「家族では、節電しよう！とか(笑)」
- ▶泰滉さん「水や懐中電灯や常備袋を用意したりしましたがけど、やっぱり、出産をひかえていたので、お腹の中の子どものことを中心に考えてましたね。」
- ▶裕加さん「なんとか無事に終わるまでは!って。」
- ▶泰滉さん「たとえ停電になっても!って(笑)」

●お腹の中に4ヶ月の子どもがいたんですね？

- ▶裕加さん「ちょうどお腹が出てきた頃で、お腹の中に子どもがいるって思うと、食べ物や水は気をつけなきゃって思っていました。特に産地なんかは気をつけた方がいいのかなと。」
- ▶泰滉さん「出産の時は誰でも心配するんでしょうけど、奇跡的にやっとできた子どもだったし、そこへきての震災で、いろいろ過度な心配はしましたね。」

●10年後は？

- ▶泰滉さん「10年後って想像がつかないですけど、家族で心は繋がっていて欲しいなと思います。」
- ▶裕加さん「実家が神奈川県なんですけど、子どもも生まれたし、ここに根を張りたいなと思ってます。家族みんなで笑っていたいですね。あと、子どもが安心して笑顔でいられるように自分も強くならなきゃって思います。恐妻家とは違うけど(笑)」

【寄付総額】

2011年6月～2012年6月15日まで、『¥702,177』を「あしなが東日本大地震・津波遺児募金」へ寄付することができました。ご協力に感謝いたします。

toVO トヴォ
PLUS

www.tovo2011.com

の家

四神降臨
白虎と青龍
千歳作龍作

青森市
青森市
青森市
青森市
青森市
青森市
青森市
青森市
青森市
青森市

青森市文化観光交

運行・跳人賞

おた大賞

NO. 004

あおもり100家集 わたしたちのこれから。

20120711





インタビュー

今号のご家族 ▶ 工藤 慎さん・忍さん・和花ちゃん

撮影場所 ▶ ねぶたの家 ワ・ラッセ (青森市)

●2011年3月11日は何をしました? ▶ 慎さん「仕事ででした。ちょうど金曜日で、もう仕事終わろうかなあって時に地震がきて。しっかりした建物の中にいたんですが、それでもかなり揺れました。職場全体がパタパタと忙しくなりましたが、地震直後に非常電源に切り替わって、普通に電気もついていたので、TVでニュースを見てました。なので、地震直後から情報量は多かったんです。でも、いざ帰宅という時に外に出たら、一面が真っ暗で、信号もついてないし...あれ?なんだろう?って急に現実的になって...驚きましたね(笑) で、急いで家に帰ったんですが、妻が家にいなかった(笑)」 忍さん「私は車に乗っていた時に地震があつて...だから地震があつたことを、ずっと知らなかったんです(笑) 信号も機能しなくなりましたが、地震でのトラブルだとは思ってなくて。普通に買い物に向かって。お店も停電してたんですけど、地震のことを知らずに買い物して。その後、ガソリンスタンドの渋滞があつて帰りが遅くなって、家に帰ったら真っ暗で、そこで初めて地震を知りました。」 慎さん「真っ暗だったのでロウソクを探して、ちょうど結婚式の時に使った太いキャンドルを見つけて、それが初めて役に立ちましたね(笑)」 ●お腹の中に6ヶ月の子どもがいたんですね? ▶ 忍さん「当日は寒かったので、湯たんぽをコタツの中に入れて、その中で身体を暖めてました。まだ産まれる前だから良かったんですけど、産まれた後でこの状況だったら大変だなあと。その後、テレビを見てても被災地の妊婦さんと自分を重ねてしまつて。」 慎さん「最初は食べ物に関しても敏感になりましたが、極端に食べ過ぎない限り大丈夫だと思って、それほど意識はしませんでした。」 ●震災以降、家族で何か話し合ったり、何か変化はありました? ▶ 忍さん「とりあえず結婚式のキャンドルは非常用リュックに入れて(笑) あと、手動の懐中電灯、チャッカマンとか...なぜかトイレトペーパーも(笑)」 ●10年後は? ▶ 忍さん「2人目の子どもは欲しいですね。で、マイホームを建てて、家族4人、あと両親と一緒に暮らしてたらいいなと思います。」 慎さん「そうですね、みんな仲良く暮らしてたらとしか思い浮かばないけど...アパートではなく、子どもが自分の家だって言える家は欲しいですね。」 **終**

東日本大地震・津波遺児チャリティー

tovo トヴォ

2011年6月～2012年6月30日まで

¥723,038

を「あしなが東日本大地震・津波遺児募金」へ寄付することができました。ご協力に感謝いたします。

【tovo/ トヴォ】は、2011年3月11日の東日本大震災によって、親を失った子どもたちを、青森から支援するプロジェクトです。チャリティーグッズを制作・販売し、その経費を除いた全ての収益を、あしなが育英会「あしなが東日本大地震・津波遺児募金」へ継続的に寄付し、青森から「あなたがたのそばにいつもいますよ」と伝え続けます。ご支援・ご協力を宜しくお願いいたします。

【代表】小山田 和正【住所】〒037-0056 青森県五所川原市東広町14-1【web】http://tovo2011.com【mail】info@tovo2011.com【twitter】@tovo2011

今号のご家族▶工藤慎さん・忍さん・和花ちゃん

撮影場所▶ねぶたの家 ワ・ラッセ (青森市)

【インタビュー】

●2011年3月11日は何をしました？

▶慎さん「工作中でした。ちょうど金曜日で、もう仕事終わろうかなあって時に地震がきて。しっかりした建物の中にいたんですが、それでもかなり揺れました。職場全体がバタバタと忙しくなりましたが、地震直後に非常電源に切り替わってて、普通に電気もついていたので、TVでニュースを見てました。なので、地震直後から情報量は多かったんです。でも、いざ帰宅という時に外に出たら、一面が真っ暗で、信号もついてないし...あれ？なんだろう？って急に現実的になって...驚きましたね(笑) で、急いで家に帰ったんですが、妻が家にいなかった(笑)」

▶忍さん「私は車に乗っていた時に地震があって...だから地震があったことを、ずっと知らなかったんです(笑) 信号も機能しなくなりましたが、地震でのトラブルだとは思ってなくて。普通に買い物に向かって。お店も停電してたんですけど、地震のことを知らずに買い物して。その後、ガソリンスタンドの渋滞があって帰りが遅くなって、家に帰ったら真っ暗で、そこで初めて地震を知りました。」

▶慎さん「真っ暗だったのでロウソクを探して、ちょうど結婚式の時に使った太いキャンドルを見つけて、それが初めて役に立ちましたね(笑)」

●お腹の中に6ヶ月の子どもがいたんですね？

▶忍さん「当日は寒かったので、湯たんぽをコタツの中に入れて、その中で身体を暖めてました。まだ産まれる前だから良かったんですけど、産まれた後でこの状況だったら大変だなあと。その後、テレビを見てても被災地の妊婦さんと自分を重ねてしまって。」

▶慎さん「最初は食べ物に関しても敏感になりましたが、極端に食べ過ぎない限り大丈夫だと思って、それほど意識はしませんでした。」

●震災以降、家族で何か話し合ったり、何か変化はありました？

▶忍さん「とりあえず結婚式のキャンドルは非常用リュックに入れて(笑) あと、手動の懐中電灯、チャッカマンとか...なぜかトイレットペーパーも(笑)」

●10年後は？

▶忍さん「2人目の子どもは欲しいですね。で、マイホームを建てて、家族4人、あと両親と一緒に暮らしてたらいいなと思います。」

▶慎さん「そうですね、みんな仲良く暮らしてたらとしか思い浮かばないけど...アパートではなく、子どもが自分の家だって言える家は欲しいですね。」

【寄付総額】

2011年6月～2012年6月30日まで、『¥723,038』を「あしなが東日本大地震・津波遺児募金」へ寄付することができました。ご協力に感謝いたします。

toVO トヴォ
PLUS

www.tovo2011.com



NO. 005

あおもりの100家族、わたしたちのこれから。

20120811





インタビュー

今号のご家族 ▶ 小野寺 浄さん・真妃子さん・心ちゃん・仁くん・元くん
撮影場所 ▶ 立佞武多祭り (五所川原市)

●2011年3月11日は何をしました? ▶ 浄さん「会社で仕事中でした。急に揺れて、会社全部が停電になりました。誰かが携帯のワンセグでニュースを見てて、それで、あれ? 海岸沿いが大変なことになってるなと。会社も仕事を続けるかどうか迷って、結局、復旧のメドがたたず帰宅しました。」真妃子さん「仕事中でした。デパートで働いているのですが、まずお客さんを外に誘導しました。普段は地震が起きて停電しても、すぐに復旧するのですが、今回は復旧のメドもたたず、結局、帰宅となりました。仕事中でテレビも見ることができませんでしたし、車にもナビが付いていないので、そこまで凄惨なことになってるの? と思いながら、事態が掴めないまま、信号の止まった道を車で家に戻りました。」●お子さんたちはどちらに? ▶ 浄さん「3人とも同じ保育園にいました。迎えに行ったのは4時頃で、もちろん、保育園も停電で。迎えに行った時は、みんな迎えに来た後で、子どもたちは多くは残っていませんでしたが、停電しているにも関わらず、保育園自体は普段通りの雰囲気でしたね。」●その後は? ▶ 浄さん「食料を買いに行き、ろうそくで灯りを点して、反射式のストーブで暖をとって、ガスでご飯を炊いて...」真妃子さん「子どもたちは、テレビもつかないし、なんで電気がつかないんだろうとは思ってたと思いますが、真っ暗闇の中、ろうそくですから、いつもと違った雰囲気...誕生日会か何かと思ってたんじゃないかと思いますがね(笑)」●震災以降、家族で何か話し合ったり、何か変化はありました? ▶ 浄さん「特に家族で話し合ったりはなかったです。手動式の懐中電灯を買いましたね。もちろん今回の地震は大きいのですが、感覚的には、子どもの頃体験した日本海中部地震(1983年5月26日)が自分にとってはリアルに感じます。その時は、市内も家もとても大きな被害を受けました。」●10年後は? ▶ 浄さん「10年後も家族みんなが五体満足で生きてほしいですね。」真妃子さん「子どもたちは、勉強ができなくても、思いやりのある子どもに育っていて欲しいです。毎日は同じではなく、明日だってどうなるかわからないので、1日1日を大切に生きていたいと思います。」浄さん「10年後も、家族全員で立佞武多祭りに参加したいですね!」 **終**

東日本大地震・津波遺児チャリティー

tovo トヴォ

2011年6月～2012年7月31日まで

¥810,981

を「あしなが東日本大地震・津波遺児募金」へ寄付することができました。ご協力に感謝いたします。

【tovo/ トヴォ】は、2011年3月11日の東日本大震災によって、親を失った子どもたちを、青森から支援するプロジェクトです。チャリティーグッズを制作・販売し、その経費を除いた全ての収益を、あしなが育英会「あしなが東日本大地震・津波遺児募金」へ継続的に寄付し、青森から「あなたがたのそばにいつもいますよ」と伝え続けます。ご支援・ご協力を宜しくお願いいたします。

【代表】小山田 和正【住所】〒037-0056 青森県五所川原市東広町14-1【web】http://tovo2011.com【mail】info@tovo2011.com【twitter】@tovo2011

今号のご家族▶小野寺 浄さん・真妃子さん・心ちゃん・仁くん・元くん

撮影場所▶立佞武多祭り (五所川原市)

【インタビュー】

●2011年3月11日は何をしてました？

▶浄さん「会社で仕事中でした。急に揺れて、会社全部が停電になりました。誰かが携帯のワンセグでニュースを見てて、それで、あれ？海岸沿いが大変なことになってるなど。会社も仕事を続けるかどうか迷ってて、結局、復旧のメドがたたず帰宅しました。」

▶真妃子さん「仕事中でした。デパートで働いているのですが、まずお客さんを外に誘導しました。普段は地震が起きて停電しても、すぐに復旧するのですが、今回は復旧のメドもたたず、結局、帰宅となりました。仕事中でテレビも見ることができませんでしたし、車にもナビが付いていないので、そこまで凄いいことになってるの？と思いながら、事態が掴めないまま、信号の止まった道を車で家に戻りました。」

●お子さんたちはどちらに？

▶浄さん「3人とも同じ保育園にいました。迎えに行ったのは4時頃で、もちろん、保育園も停電で。迎えに行った時は、みんな迎えに来た後で、子どもたちは多くは残っていなかったのですが、停電しているにも関わらず、保育園自体は普段通りの雰囲気でしたね。」

●その後は？

▶浄さん「食料を買いに行って、ロウソクで灯りを点して、反射式のストーブで暖をとって、ガスでご飯を炊いて...。」

▶真妃子さん「子どもたちは、テレビもつかないし、なんで電気がつかないんだろうとは思ってたと思いますが、真っ暗闇の中、ロウソクですから、いつもと違った雰囲気...誕生日会か何かと思ってたんじゃないかと思いますね(笑)」

●震災以降、家族で何か話し合ったり、何か変化はありました？

▶浄さん「特に家族で話し合ったりはなかったです。手動式の懐中電灯を買いましたね。もちろん今回の地震は大きいのですが、感覚的には、子どもの頃体験した日本海中部地震(1983年5月26日)が自分にとってはリアルに感じます。その時は、市内も家もとても大きな被害を受けました。」

●10年後は？

▶浄さん「10年後も家族みんなが五体満足で生きてたらいいですね。」

▶真妃子さん「子どもたちは、勉強ができなくても、思いやりのある子どもに育っていて欲しいです。毎日は同じではなく、明日だってどうなるか分からないので、1日1日を大切に生きていた

いと思います。」

▶浄さん「10年後も、家族全員で立佞武多祭りに参加してたいですね！」

【寄付総額】

2011年6月～2012年7月31日まで、『¥810,981』を「あしなが東日本大地震・津波遺児募金」へ寄付することができました。ご協力に感謝いたします。

toVO トヴォ
PLUS

www.tovo2011.com



NO. 006

20120911

あおもれの100家族、わたしたちのひととき。





インタビュー

今号のご家族 ▶ 田代 和也 さん・その子さん・月乃さん

撮影場所 ▶ HOMEWORKS (弘前市)

●2011年3月11日は何をしてました? ▶ 和也さん「私は茨城県水戸市出身なんですが、地震が日常的にあるんです。小学校の時に新潟地震という大きな地震を経験しているし、地震はそんなに怖くないという認識があったんですね。その日も、ああ、地震がきたな、青森では珍しいな、くらいの気持ちだったんです。会社から、どうしましょう?と連絡があったんですが、とにかく大したことはないから落ち着けと。でも、数日間、停電にもなって、近代史稀に見る大被害でしょ。私は商売をしているので、まして、決して生活に必要なものを扱っているお店ではないので、今後こういう商売はどうなっていくんだろうって、すごい危機感を感じましたね。」その子さん「ちょうど長女が大学進学で上京をするので、東京で生活する為のモノを揃えていた時期なんです。その日はTVを買いに行こうと、主人を待っている間に地震が起きました。その後、この子(月乃さん)の学校から緊急連絡網が入って、迎えに行くために外へ出たものの、信号が動いてなくて、渋滞をくぐり抜けて、なんとか学校までたどり着いて…。学校もパニックになってましたね。」月乃さん「学校で掃除の時間だったんですが、掃除をしている時に地震が起きて、みんなで外に避難しました。」その子さん「私の実家がすぐ隣なので、その日は、みんなで食べ物を持ち寄って食べたのかな。母も私の兄弟もみんな家に集まって、数日間、リビングに8人で寝てました。」●震災以降、家族で何か話し合ったり、何か変化はありました? ▶ その子さん「うーん、特に家族で話し合ったりはなかったですね。」和也さん「自然災害に関しては、避けようと思って避けられるわけでもないですからね。それを怖がっても生きていけないですし。気持ちの上では言葉に出さなくても、家族それぞれがいろいろ感じていると思います。」月乃さん「被害にあった人たちに、何かしたいと思うんだけど、何をしたいのか分からなくて、可哀想だな、大変だなと思うことしかできなくて…」●10年後は? ▶ その子さん「娘たちは、もう各々の道を進んでるだろうなと思います。いろんな人に感謝しながら、被害にあった人たちにも、何かできることがあればしていきたいなと思います。」月乃さん「うーん…、まだ決めてなくて、その時に何になってるか分からないけど、10年経ってもこの震災のことは忘れないでいたいなと思います。」和也さん「生活できること、私自身は確実に仕事ができること、娘は勉強やスポーツができること、家内はご飯の支度や洗濯ができること、そういう日常のことができてありがたいし、それを幸せだと感じることを大事にしていきたいですね。」終

東日本大地震・津波遺児チャリティー

tovo トヴォ

2011年6月～2012年8月31日まで

¥953,463

を「あしなが東日本大地震・津波遺児募金」へ寄付することができました。ご協力に感謝いたします。

【tovo/ トヴォ】は、2011年3月11日の東日本大震災によって、親を失った子どもたちを、青森から支援するプロジェクトです。チャリティーグッズを制作・販売し、その経費を除いた全ての収益を、あしなが育英会「あしなが東日本大地震・津波遺児募金」へ継続的に寄付し、青森から「あなたがたのそばにいつもいますよ」と伝え続けます。ご支援・ご協力を宜しくお願いいたします。

【代表】小山田 和正【住所】〒037-0056 青森県五所川原市東広町14-1【web】http://tovo2011.com【mail】info@tovo2011.com【twitter】@tovo2011

今号のご家族▶田代 和也さん・その子さん・月乃さん

撮影場所▶HOMEWORKS (弘前市)

【インタビュー】

●2011年3月11日は何をしました？

▶和也さん「私は茨城県水戸市出身なのですが、地震が日常的にあるんです。小学校の時にも新潟地震という大きな地震を経験しているし、地震はそんなに怖くないという認識があったんですね。その日も、ああ、地震がきたな、青森では珍しいな、くらいの気持ちだったんです。会社から、どうしましょう？と連絡があったんですが、とにかく大したことはないから落ち着けと。でも、数日間、停電にもなって、近代史稀に見る大被害でしょ。私は商売をしているので、まして、決して生活に必要なものを扱っているお店ではないので、今後こういう商売はどうなっていくんだろうって、すごい危機感を感じましたね。」

▶その子さん「ちょうど長女が大学進学で上京をするので、東京で生活する為のモノを揃えていた時期なんです。その日はTVを買いに行こうと、主人を待っている間に地震が起きました。その後、この子(月乃さん)の学校から緊急連絡網が入って、迎えに行くために外へ出たものの、信号が動いてなくて、渋滞をくぐり抜けて、なんとか学校までたどり着いて…。学校もパニックになってましたね。」

▶月乃さん「学校で掃除の時間だったんですが、掃除をしている時に地震が起きて、みんなで外に避難しました。」

▶その子さん「私の実家がすぐ隣なので、その日は、みんなで食べ物を持ち寄って食べたのかな。母も私の兄弟もみんな家に集まって、数日間、リビングに8人で寝てました。」

●震災以降、家族で何か話し合ったり、何か変化はありました？

▶その子さん「うーん、特に家族で話し合ったりはなかったですね。」

▶和也さん「自然災害に関しては、避けようと思って避けられるわけでもないですからね。それを怖がっても生きていけないですし。気持ちの上では言葉に出さなくても、家族それぞれがいろいろ感じていると思います。」

▶月乃さん「被害にあった人たちに、何かしたいと思うんだけど、何をしたいのか分からなくて、可哀想だな、大変だなと思うことしかできなくて…。」

●10年後は？

▶その子さん「娘たちは、もう各々の道を進んでるだろうなと思います。いろんな人に感謝しながら、被害にあった人たちにも、何かできることがあればしていきたいなと思います。」

▶月乃さん「うーん…、まだ決めてなくて、その時に何になってるか分からないけど、10年経ってもこの震災のことは忘れないでいたいなと思います。」

▶和也さん「生活できること、私自身は確実に仕事ができること、娘は勉強やスポーツができること、家内はご飯の支度や洗濯ができること、そういう日常のことができることがありがたいし、それを幸せだと感じることを大事にしていきたいですね。」

【寄付総額】

2011年6月～2012年8月31日まで、『¥953,463』を「あしなが東日本大地震・津波遺児募金」へ寄付することができました。ご協力に感謝いたします。

toVO トウゴ
PLUS

www.tovo2011.com



NO. 007
20121011

あおもりの100家族、わたしたちのこれから。



インタビュー

今号のご家族 ▶ 米谷 脩一さん・隆佑くん・賢人くん

撮影場所 ▶ 赤石海岸 (西津軽郡鯉ヶ沢町)

●2011年3月11日は何をしました? ▶ 賢人くん「小学4年で、学校が早く終わった日で、家でTVを観てたら地震が起きて、TV画面が消えて…」 隆佑くん「小学6年で、3月19日の卒業式を間近に控え、学校は早く終わってたんです。丁度、近所に回覧板をまわしてる時に地震が起きました。最後の家で犬がもの凄く吠えてて、変だなと思ったら、電線がグラグラ揺れてて、地震だ!って、弟とおばあちゃんが残っている家に急いで帰りました。まず、震源地、日本海側か太平洋側かを知りたくてラジオをつけたんだけど、まだ震源地がよく分かってなくて、怖かったですね。実は近所に避難所があって、でも、家は海より遠いし、高いから逃げなくても大丈夫かなーと軽く考えてたんです。今思うと、この行動はよくなかったですね。」 脩一さん「仕事中でした。海の仕事なので、ずっと待機してて、結果的に夕方5時前には家に帰ることができたんだけど、子どもたちが電話を持っていないので、それ迄は連絡もつかず、どうしているか心配でした。」 ●当日の夜は? ▶ 脩一さん「石油ストーブを出して、残りものを食べて。近所の家で発電機を使って、皆でTVを見に行きましたね。情報が欲しくてワンセグの電波がよく届く場所まで車で移動したり。」 隆佑くん「あんな真暗な鯉ヶ沢は初めてでした。」 賢人くん「次の日は学校に行っただけで、午前中は停電。昼ぐらいかな、ストーブの表示ランプが点いて、先生が電気をつけてみよう!って言って、電気がついて、みんな喜びました。」 隆佑くん「とても嬉しかったですね。電気がない生活って大変だったから。」 ●隆佑くんは卒業式だったんですね? ▶ 脩一さん「卒業式は通常通りだったんですが、その後の歓送迎会は縮小で。皆いろいろ準備してたし、6年間の集大成が縮小になって、ああ、可哀想な思いさせたと。」 隆佑くん「校長先生が、卒業式ができるだけでも幸せだった。」 ●震災以降、何か変化はありました? ▶ 脩一さん「田舎はイイなと思うようになりました。家も学校も職場も近いし、皆が近くにいて、近所には子どもたちを知らない大人はいないし。何かあっても助け合える環境に住んでいるというのは幸せですね。」 隆佑くん「青森から遠く離れた場所の地震でも、地震のニュースには敏感になりました。」 賢人くん「以前から地震はあったんだけど、地震がちょっと怖くなりました。ずっとTVの右下に地震や津波の情報が出てるし、学校にいる時に津波注意報が出て、皆で高台の避難所に逃げたりもしたから…」 ●10年後は? ▶ 隆佑くん「もう受験だから進路を決めなければいけないんだけど、将来についてあんまり考えてなくて(笑)。お父さんはこの場所で今の仕事を続けて欲しい。弟も夢が叶って欲しい。」 賢人くん「F1レーサーか自衛隊になりたいんだけど、その夢が叶って欲しい。あ、サッカー選手も(笑)」 脩一さん「ブレないでいたいですね。子どもたちの持っている夢を皆で応援していけたらイイと思う。」 **終**

東日本大地震・津波遺児チャリティー

tovo トヴォ

2011年6月～2012年9月30日まで

¥1,058,142

を「あしなが東日本大地震・津波遺児募金」へ寄付することができました。ご協力に感謝いたします。

【tovo/ トヴォ】は、2011年3月11日の東日本大震災によって、親を失った子どもたちを、青森から支援するプロジェクトです。チャリティーグッズを制作・販売し、その経費を除いた全ての収益を、あしなが育英会「あしなが東日本大地震・津波遺児募金」へ継続的に寄付し、青森から「あなたがたのそばにいつもいますよ」と伝え続けます。ご支援・ご協力を宜しくお願いいたします。

【代表】小山田 和正【住所】〒037-0056 青森県五所川原市東広町14-1【web】http://tovo2011.com【mail】info@tovo2011.com【twitter】@tovo2011

今号のご家族▶米谷 脩一さん・隆佑くん・賢人くん

撮影場所▶赤石海岸 (西津軽郡鰺ヶ沢町)

【インタビュー】

●2011年3月11日は何をしました？

▶賢人くん「小学4年で、学校が早く終わった日で、家でTVを観てたら地震が起きて、TV画面が消えて...。」 隆佑くん「小学6年で、3月19日の卒業式を間近に控え、学校は早く終わってたんです。丁度、近所に回覧板をまわしてる時に地震が起きました。最後の家で犬がもの凄く吠えてて、変だなと思ったら、電線がグラグラ揺れてて、地震だ！って、弟とおばあちゃんが残っている家に急いで帰りました。まず、震源地、日本海側か太平洋側かを知りたくてラジオをつけたんだけど、まだ震源地がよく分かってなくて、怖かったですね。実は近所に避難所があって、でも、家は海より遠いし、高いから逃げなくても大丈夫かなーと軽く考えてたんです。今思うと、この行動はよくなかったですね。」

▶脩一さん「仕事中でした。海の仕事なので、ずっと待機してて、結果的に夕方5時前には家に帰ることができたんだけど、子どもたちが電話を持っていないので、それ迄は連絡もつかず、どうしているか心配でした。」

●当日の夜は？

▶脩一さん「石油ストーブを出して、残りものを食べて。近所の家で発電機を使ってて、皆でTVを見に行きましたね。情報が欲しくてワンセグの電波がよく届く場所まで車で移動したり。」

▶隆佑くん「あんな真っ暗な鰺ヶ沢は初めてでした。」

▶賢人くん「次の日は学校に行ったんだけど、午前中は停電。昼ぐらいかな、ストーブの表示ランプが点いて、先生が電気をつけてみよう！って言って、電気がついて、みんな喜びました。」

▶隆佑くん「とても嬉しかったですね。電気がない生活って大変だったから。」

●隆佑くんは卒業式だったんですね？

▶脩一さん「卒業式は通常通りだったんですが、その後の歓送迎会は縮小で。皆いろいろ準備してたし、6年間の集大成が縮小になって、ああ、可哀想な思いさせたなと。」

▶隆佑くん「校長先生が、卒業式ができるだけでも幸せだって。」

●震災以降、何か変化はありました？

▶脩一さん「田舎はイイなと思うようになりました。家も学校も職場も近いし、皆が近くにいて、近所には子どもたちを知らない大人はいないし。何かあっても助け合える環境に住んでいるというのは幸せですね。」

▶隆佑くん「青森から遠く離れた場所の地震でも、地震のニュースには敏感になりました。」

▶賢人くん「以前から地震はあったんだけど、地震がちょっと怖くなりました。ずっとTVの右下に地震や津波の情報が出てるし、学校にいる時に津波注意報が出て、皆で高台の避難所に逃げたりもしたから...。」

●10年後は？

▶隆佑くん「もう受験だから進路を決めなければいけないんだけど、将来についてあんまり考えてなくて(笑)。お父さんはこの場所で今の仕事を続けて欲しい。弟も夢が叶って欲しい。」

▶賢人くん「F1レーサーか自衛隊になりたいんだけど、その夢が叶って欲しい。あ、サッカー選手も(笑)」

▶脩一さん「ブレないでいたいですね。子どもたちの持っている夢を皆で応援していけたらいいなと思う。」

【寄付総額】

2011年6月～2012年9月30日まで、『¥1,058,142』を「あしなが東日本大地震・津波遺児募金」へ寄付することができました。ご協力に感謝いたします。

toVO トヴォ
PLUS

www.tovo2011.com



NO. 008

おぼりの100年、わたしたちのこれから

2012/11



インタビュー

今号のご家族 ▶ 今 浩一さん・寛子さん・慎斗くん・愛佳ちゃん・万愛ちゃん

撮影場所 ▶ ふるさとセンター (北津軽郡板柳町) 残念ながら、慎斗くんは、写真撮影当日に都合がつかずインタビューのみです。

●2011年3月11日は何をしました? ▶ 慎斗くん「小学5年の時で、地震が起きたのは丁度授業が始まる時。校内放送の指示で、机の下に隠れて、皆で並んで校庭に避難して、先生の話聞いた後、妹の愛佳と一緒に集団下校しました。」浩一さん「ビルの3階で講習を受けていた時に地震が起きました。外を見ると向い側のビルが、びっくりするくらい左右に大きく揺れていました。停電で講習が中止になったので、車で帰りましたが、信号が全く動いてなくて。家に着いて、携帯のワンセグで初めて何が起ったのか知って驚きました。」寛子さん「地震の時は、私は家にいて、とりあえず外に逃げました。近所の人たちも皆外に出てきてましたね。地震がおさまったので家に入って、子どもたちを迎えに行く準備をしてみると、また余震がきて、近所でドーン!っていうもの凄いの音がして、また外に出て…。丁度主人が帰ってきたので、一緒に子どもたちを迎えにいきました。途中で、集団下校の行列の中に、慎斗と愛佳を見つけたので、車に乗せて、万愛の保育園に向いました。」愛佳ちゃん「小学3年の時で、掃除が終わった後、先生がいない時に地震がきて、みんな、えっ?えっ?ってなって、校内放送が入って、皆で机の下に隠れて。1度先生が来たんだけど、また職員室に戻ってしまって、しばらくして教頭先生が回ってきて、また地震がくるかもしれないから、まだ机の下に隠れててと言われました。」●さすがに万愛ちゃんは憶えてないよね? ▶ 万愛ちゃん「避難訓練のこと?」寛子さん「避難訓練じゃなくて(笑) その時は未満児保育の頃だから…。」愛佳ちゃん「でも、万愛が1番楽しそうだったよね。」寛子さん「ハッピーバースデーみたいって言ってましたね(笑)」●当日の夜は? ▶ 浩一さん「ストーブがなかったので、皆で居間に集まって毛布をかぶってました。懐中電灯が1つしかなかったので、誰かがそれを持ってトイレに行くと、部屋が真っ暗になって(笑)」寛子さん「真っ暗な中でろうそくを灯して、時間の感覚が全くなりませんでしたね。ろうそくが揺れたとか、普段は何でもない出来事でも、何?何?って、大げさに話してたような気がします(笑)」●震災以降、何か変化はありました? ▶ 浩一さん「意識して何か変えたっていうのはないですね。」寛子さん「その頃は、家族で非常時用の食料とか準備しておいた方がイイって話しましたね。でも、時間が経つにつれて話も出なくなって…。また3月になって震災の話題が多くなると、そういう話もするんでしょうけど、それが過ぎると同じ様な生活に戻ってるような気がしますね。」慎斗くん「募金をするようになった。」●10年後は? ▶ 浩一さん「もう子どもたちは皆この町にはいないですよ。」寛子さん「私たち夫婦も好きな仕事をしているので、子どもたちにも好きな仕事をして欲しい。」慎斗くん「うーん、これからも変わるだろうけど、きっとこの町にいますよ。」終

東日本大地震・津波遺児チャリティー

tovo トヴォ

2011年6月～2012年10月31日まで

¥1,112,157

を「あしなが東日本大地震・津波遺児募金」へ寄付することができました。ご協力に感謝いたします。

【tovo/ トヴォ】は、2011年3月11日の東日本大震災によって、親を失った子どもたちを、青森から支援するプロジェクトです。チャリティーグッズを制作・販売し、その経費を除いた全ての収益を、あしなが育英会「あしなが東日本大地震・津波遺児募金」へ継続的に寄付し、青森から「あなたがたのそばにいつもいますよ」と伝え続けます。ご支援・ご協力を宜しくお願いいたします。

【代表】小山田 和正【住所】〒037-0056 青森県五所川原市東広町14-1【web】http://tovo2011.com【mail】info@tovo2011.com【twitter】@tovo2011

今号のご家族▶今 浩一さん・寛子さん・慎斗くん・愛佳ちゃん・万愛ちゃん

※残念ながら、慎斗くんは、写真撮影当日に 都合がつかずインタビューのみです。

撮影場所▶ふるさとセンター (北津軽郡板柳町)

【インタビュー】

●2011年3月11日は何をしてました？

▶慎斗くん「小学5年の時で、地震が起きたのは丁度授業が始まる時。校内放送の指示で、机の下に隠れて、皆で並んで校庭に避難して、先生の話聞いた後、妹の愛佳と一緒に集団下校しました。」

▶浩一さん「ビルの3階で講習を受けていた時に地震が起きました。外を見ると向い側のビルが、びっくりするくらい左右に大きく揺れていました。停電で講習が中止になったので、車で帰りましたが、信号が全く動いてなくて。家に着いて、携帯のワンセグで初めて何が起こったのか知って驚きました。」

▶寛子さん「地震の時は、私は家にいて、とりあえず外に逃げました。近所の人たちも皆外に出てきてましたね。地震がおさまったので家に入って、子どもたちを迎えに行く準備をしてると、また余震がきて、近所でドーン！っていうもの凄い音がして、また外に出て…。丁度主人が帰ってきたので、一緒に子どもたちを迎えにいきました。途中で、集団下校の行列の中に、慎斗と愛佳を見つけたので、車に乗せて、万愛の保育園に向いました。」

▶愛佳ちゃん「小学3年の時で、掃除が終わった後、先生がいない時に地震がきて、みんな、えっ？えっ？ってなって、校内放送が入って、皆で机の下に隠れて。1度先生が来たんだけど、また職員室に戻ってしまっって、しばらくして教頭先生が回ってきて、また地震がくるかもしれないから、まだ机の下に隠れててと言われました。」

●さすがに万愛ちゃんは憶えてないよね？

▶万愛ちゃん「避難訓練のこと？」

▶寛子さん「避難訓練じゃなくって(笑) その時は未満児保育の頃だから…。」

▶愛佳ちゃん「でも、万愛が1番楽しそうだったよね。」

▶寛子さん「ハッピーバースデーみたいって言っていましたね(笑)」

●当日の夜は？

▶浩一さん「ストーブがなかったので、皆で居間に集まって毛布をかぶってました。懐中電灯が1つしかなかったんで、誰かがそれを持ってトイレに行くと、部屋が真っ暗になって(笑)」

▶寛子さん「真っ暗な中でロウソクを灯して、時間の感覚が全くなくなりましたね。ロウソクが揺れたとか、普段は何でもない出来事でも、何？何で？って、大げさに話してたような気がします(笑)」

●震災以降、何か変化はありました？

▶浩一さん「意識して何か変えたっていうのはないですね。」

▶寛子さん「その頃は、家族で非常時用の食料とか準備しておいた方がイイって話はしましたね。でも、時が経つにつれて話も出なくなって…。また3月になって震災の話題が多くなると、そういう話もするんでしょうけど、それが過ぎると同じ様な生活に戻ってるような気がしますね。」

▶慎斗くん「募金をするようになった。」

●10年後は？

▶浩一さん「もう子どもたちは皆この町にはいないですよ。」

▶寛子さん「私たち夫婦も好きな仕事をしているので、子どもたちにも好きな仕事をして欲しい。」

▶慎斗くん「うーん、これからも変わるだろうけど、きっとこの町にいると思う。」

【寄付総額】

2011年6月～2012年10月31日まで、『¥1,112,157』を「あしなが東日本大地震・津波遺児募金」へ寄付することができました。ご協力に感謝いたします。

toVO トヴォ
PLUS

www.tovo2011.com

王 余 魚 沢 俱 楽 部

009

NO.

20121211

あおもりの100家族、わたしたちのこれから





インタビュー

今号のご家族 ▶ 木村 尚子さん・優那ちゃん

撮影場所 ▶ 王余魚沢倶楽部 (青森市浪岡)
かれいざわくらぶ

●2011年3月11日のことって思い出してもらえました? ▶ 尚子さん「はい。全然忘れてないです。」 優那ちゃん「ほとんど憶えてないです(笑)」 尚子さん「私は職場にいて、地震でPCが一気に落ちて、データを保存してなかったので、ワァーッ!!ってなって(笑) 電気が復旧する気配もなく、会社の判断で今日は終わりにしようってことになったので、優那の待っている曾祖母の家に向ったんですが、信号が全然動いてなくて大渋滞になってました。渋滞で車が停まっている間も余震が続いていて、ホントに怖くて。その日、優那は学校が早く終わる日で、丁度、曾祖母の家にいたんです。曾祖母は80歳をこえていて、優那はその曾祖母を守ろうと小学校の校庭へ連れて逃げようとしてたみたいなんです。」 優那ちゃん「そうしたら、おばあちゃんが来た!」 尚子さん「そうそう。私の母が来て、曾祖母と優那に『2人で家に待機してて』って話をして、また出かけて。その後に、私がやっと家に着いたんです。曾祖母と優那が2人でブルブルしてましたね(笑) そして、曾祖母と優那を連れて私のアパートに戻りました。」 ●なんで優那ちゃんは、曾おばあちゃんを連れ出そうとしたの? ▶ 優那ちゃん「家が倒れると思ったんだもん。だって、すごいボロだから(笑)」 ●当日の夜は? ▶ 尚子さん「近所のスーパーに電池を買いに行ったんですが、皆が争うように買ってる異様な光景を見て、更に怖くなりました。だんだん日が暮れてきて、電気ストーブは使えないし、スキーウェアを着て、毛布にくるまってました。ガスが使えたので圧力鍋でご飯を炊いて。私自身、こんな大きな地震を体験したのは初めてだったので、何度も余震がくるし、その度に優那は泣いちゃうし、とにかく怖いのと、優那と曾祖母を守らなきゃって思いだけでした。でも、そんな中、曾祖母は7時には完全に寝てましたね(笑)」 優那ちゃん「そう!一瞬で寝てたよね(笑) すごい揺れてるのに起きない(笑)」 ●震災以降、何か変化はありました? ▶ 尚子さん「優那と2人で、いつでも逃げる事ができるように、登山用リュックにカップラーメン、ロウソク、軍手、トイレ用ペーパー、電池等を詰めて準備してます。あと、津波の映像を見てから怖くなって、青森は大丈夫だって皆言うんですけど…、車の窓ガラスを割るハンマーを買って車に常備してます(笑) 優那は自分の下着や靴下をリュックに一生懸命詰めてましたね。」 優那ちゃん「でも、きっと、もうアレ小さくなってるよね(笑)」 ●10年後は? ▶ 尚子さん「ママと一緒にパン屋さんやるんだよね。ママがコーヒーを淹れて、優那がパンを焼いて。」 優那ちゃん「ペラペラとバラさなくていいの!」 尚子さん「優那は、人の痛みが分かる優しい子になって欲しいですね。」 優那ちゃん「ママは、これ以上太らないで欲しいですね(笑)」 **終**

東日本大地震・津波遺児チャリティー

tovo トヴォ

2011年6月～2012年10月31日まで

¥1,112,157

を「あしなが東日本大地震・津波遺児募金」へ寄付することができました。ご協力に感謝いたします。

【tovo/ トヴォ】は、2011年3月11日の東日本大震災によって、親を失った子どもたちを、青森から支援するプロジェクトです。チャリティーグッズを制作・販売し、その経費を除いた全ての収益を、あしなが育英会「あしなが東日本大地震・津波遺児募金」へ継続的に寄付し、青森から「あなたがたのそばにいつもいますよ」と伝え続けます。ご支援・ご協力を宜しくお願いいたします。

【代表】小山田 和正【住所】〒037-0056 青森県五所川原市東広町14-1【web】http://tovo2011.com【mail】info@tovo2011.com【twitter】@tovo2011

今号のご家族▶木村 尚子さん・優那ちゃん

撮影場所▶王余魚沢倶楽部 (青森市浪岡)

【インタビュー】

●2011年3月11日のことって思い出してもらえました？

▶尚子さん「はい。全然忘れてないです。」

▶優那ちゃん「ほとんど憶えてないです(笑)」

▶尚子さん「私は職場にいて、地震でPCが一気に落ちて、データを保存してなかったので、
ワァーッ！！ってなって(笑) 電気が復旧する気配もなく、会社の判断で今日は終わりにしようって
ことになったので、優那の待っている曾祖母の家に向ったんですが、信号が全然動いてなくて大
渋滞になってました。渋滞で車が停まっている間も余震が続いていて、ホントに怖くて。その日
、優那は学校が早く終わる日で、丁度、曾祖母の家にいたんです。曾祖母は80歳をこえていて、
優那はその曾祖母を守ろうと小学校の校庭へ連れて逃げようとしてたみたいなんです。」

▶優那ちゃん「そうしてたら、おばあちゃんが来た！」

▶尚子さん「そうそう。私の母が来て、曾祖母と優那に『2人で家に待機してて』って話をして、
また出かけて。その後に、私がやっと家に着いたんです。曾祖母と優那が2人でブルブルしてまし
たね(笑) そして、曾祖母と優那を連れて私のアパートに戻りました。」

●なんで優那ちゃんは、曾おばあちゃんを連れ出そうとしたの？

▶優那ちゃん「家が倒れると思ったんだもん。だって、すごいボロだから(笑)」

●当日の夜は？

▶尚子さん「近所のスーパーに電池を買いに行ったんですが、皆が争うように買ってる異様な光景
を見て、更に怖くなりました。だんだん日が暮れてきて、電気ストーブは使えないし、スキーウ
ェアを着て、毛布にくるまってました。ガスが使えたので圧力鍋でご飯を炊いて。私自身、こん
な大きな地震を体験したのは初めてだったので、何度も余震がくるし、その度に優那は泣いちゃ
うし、とにかく怖いのと、優那と曾祖母を守らなきゃって思いだけでした。でも、そんな中、曾
祖母は7時には完全に寝てましたね(笑)」

▶優那ちゃん「そう！一瞬で寝てたよね(笑) すごい揺れてるのに起きない(笑)」

●震災以降、何か変化はありました？

▶尚子さん「優那と2人で、いつでも逃げることができるように、登山用リュックにカップラー
メン、ロウソク、軍手、トイレットペーパー、電池等を詰めて準備してます。あと、津波の映像
を見てから怖くなって、青森は大丈夫だって皆言うんですけど...、車の窓ガラスを割るハンマー
を買って車に常備してます(笑) 優那は自分の下着や靴下をリュックに一生懸命詰めてましたね。」

▶優那ちゃん「でも、きっと、もうアレ小さくなってるよね(笑)」

●10年後は？

▶尚子さん「ママと一緒にパン屋さんやるんだよね。ママがコーヒーママを淹れて、優那がパンを焼いて。」

▶優那ちゃん「べらべらとバラさなくていいの！」

▶尚子さん「優那は、人の痛みが分かる優しい子になって欲しいですね。」

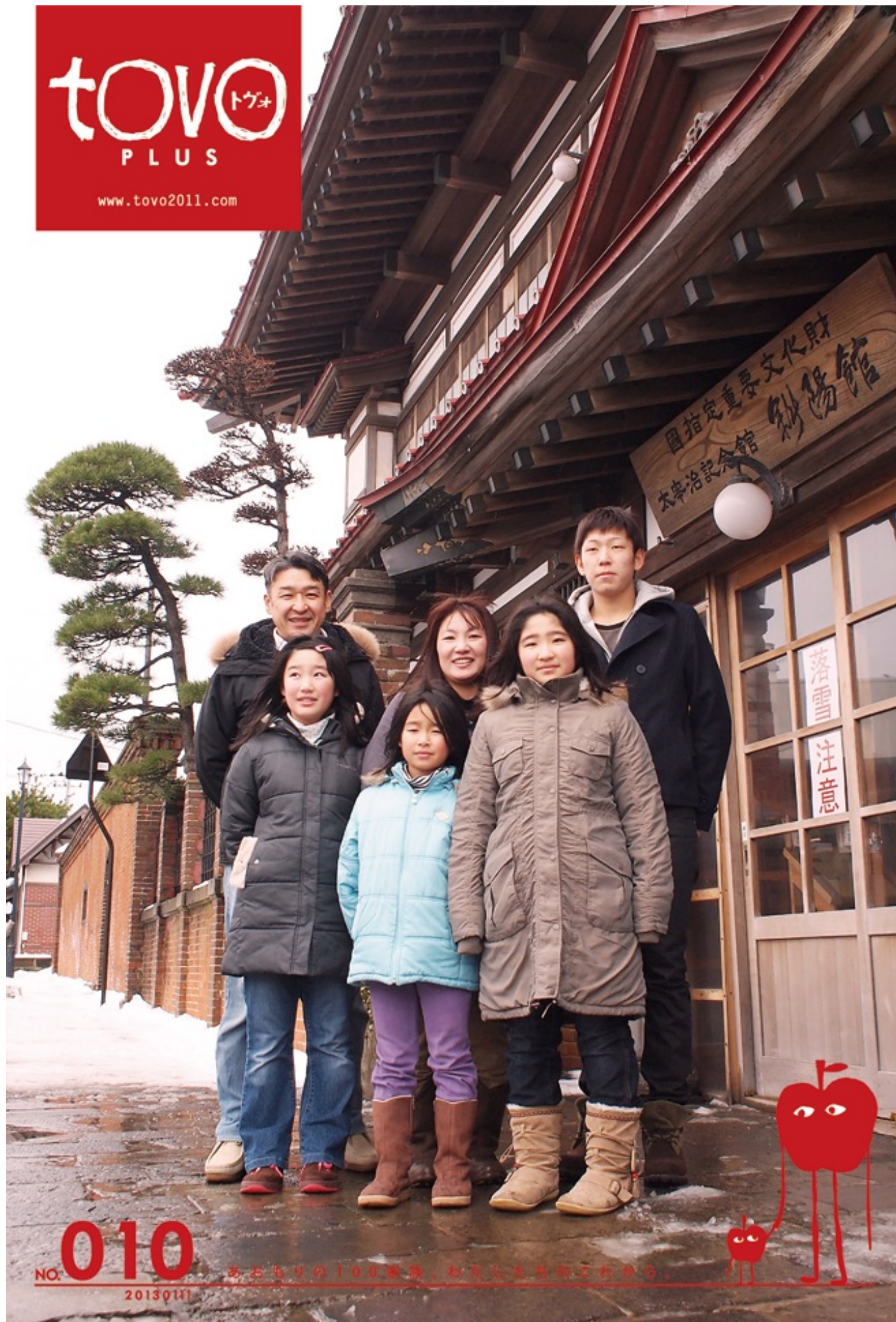
▶優那ちゃん「ママは、これ以上太らないで欲しいですね(笑)」

【寄付総額】

2011年6月～2012年10月31日まで、『¥1,112,157』を「あしなが東日本大地震・津波遺児募金」へ 寄付することができました。ご協力に感謝いたします。

toVO トヴォ
PLUS

www.tovo2011.com



NO. 010
20130111

あおもりの100写真。わたしたちのこれから。



インタビュー

今号のご家族▶加賀谷 尚さん・孝子さん・ちほちゃん・りなちゃん・めいちゃん・伊勢田 尚哉くん

撮影場所▶太宰治記念館 斜陽館 (五所川原市金木町)

●2011年3月11日のことを憶えていますか?▶尚さん「仕事中でした。停電後、自家発電で電気が点いてましたが、帰宅することになり、車で家に帰りました。信号が全部消えていて驚きましたが、皆が譲り合って運転していて、信号がなくても何とかなるもんだなあと感じましたね。」孝子さん「仕事中でした。何もかも電気を使っているんで、停電で仕事にならず、金庫と戸締まりだけして、そのままの状態帰宅しました。」ちほちゃん「学校の帰りの会の途中で地震が起きました。前日にも地震があって、今回も大丈夫だと思ってたんですが、かなり大きな地震で、校内放送の途中で放送も電気も切れました。避難訓練と同じ様に皆が机の下に隠れましたが、校庭に集合する程ではなかったです。その日は最後の部活だったんですけど、それも中止になって、友達と家に帰りました。」りなちゃん「机の下に隠れて…。友達と帰りました。」めいちゃん「ちょうど、送迎バスの中で地震に気が付かなかった…。」尚哉くん「授業と授業の間の休憩時間に地震が起きました。体育館が2つあるのですが、1つは耐震になっていて、その体育館に集合して、後は皆が各々電車やバスの時間に合わせて帰りました。」●当日の夜は?▶尚さん「その日の夜は会社で宴会の予定があったんです。地震で宴会自体は中止になりましたが、皆で食べ物を持ち寄るという集まりで、その準備をしていたので、食べ物だけは沢山ありました。」孝子さん「皆で台所で反射式のストーブを囲んで暖まってきましたね。土鍋でご飯を炊いて。部屋が冷えきっていて、とにかく寒くて…。」ちほちゃん「テレビもないし、何もすることがなくて、ずっと宿題をしていました(笑)」尚さん「ずっとラジオを聞いてました。緊急地震速報が頻繁で、ほぼその記憶しかありません。」孝子さん「そうそう、灯りはイイのあるよ!って、結婚式で使ったキャンドルサービスの大きいキャンドルを使って(笑) 今後も使えそうですね(笑)」●震災以降、何か変化はありました?▶尚さん「非常食や防災グッズを準備しましたね。」孝子さん「最近ではテレビでも携帯でも地震速報がありますよね。その時の真剣さが違いますね。職場にいても、家族が心配だから、もう帰ろうって思います。」ちほちゃん「つい先日の地震の時は、すぐストーブを消して、戸を開けて逃げる準備をしました。」孝子さん「それは、お父さん(尚さん)がいつもやっていることなんですよ。それを真似たんですね(笑)」●10年後は?▶尚さん「皆が健康で元気でいて欲しい。それだけです。」孝子さん「子どもたちは大きくなって、みんな違う場所で暮らしているんですけど、いつでも連絡の取れる状態であって欲しいと思います。」ちほちゃん「学力次第かなあ。」りなちゃん「美容師になりたい。」めいちゃん「クッキー屋さん。」尚哉くん「将来、医学療法士になりたいので、大学でその勉強をします。」 **終**

東日本大地震・津波遺児チャリティー

tovo トヴォ

2011年6月～2012年12月31日まで

¥1,218,058

を「あしなが東日本大地震・津波遺児募金」へ寄付することができました。ご協力に感謝いたします。

【tovo/ トヴォ】は、2011年3月11日の東日本大震災によって、親を失った子どもたちを、青森から支援するプロジェクトです。チャリティーグッズを制作・販売し、その経費を除いた全ての収益を、あしなが育英会「あしなが東日本大地震・津波遺児募金」へ継続的に寄付し、青森から「あなたがたのそばにいつもいますよ」と伝え続けます。ご支援・ご協力を宜しくお願いいたします。

【代表】小山田 和正【住所】〒037-0056 青森県五所川原市東広町14-1【web】http://tovo2011.com【mail】info@tovo2011.com【twitter】@tovo2011

今号のご家族▶加賀谷 尚さん・孝子さん・ちほちゃん・りなちゃん・めいちゃん・伊勢田 尚哉くん

撮影場所▶太宰治記念館 斜陽館 (五所川原市金木町)

【インタビュー】

●2011年3月11日のことを憶えていますか？

▶尚さん「工作中でした。停電後、自家発電で電気が点いてましたが、帰宅することになり、車で家に帰りました。信号が全部消えていて驚きましたが、皆が譲り合って運転していて、信号がなくても何とかなるもんだなあと感じましたね。」

▶孝子さん「工作中でした。何もかも電気を使っているので、停電で仕事にならず、金庫と戸締まりだけして、そのままの状態帰宅しました。」

▶ちほちゃん「学校の帰りの会の途中で地震が起きました。前日にも地震があって、今回も大丈夫だと思ってたんですが、かなり大きな地震で、校内放送の途中で放送も電気も切れました。避難訓練と同じ様に皆が机の下に隠れましたが、校庭に集合する程ではなかったです。その日は最後の部活だったんですけど、それも中止になって、友達と家に帰りました。」

▶りなちゃん「机の下に隠れて…。友達と帰りました。」

▶めいちゃん「ちょうど、送迎バスの中で地震に気が付かなかった…。」

▶尚哉くん「授業と授業の間の休憩時間に地震が起きました。体育館が2つあるのですが、1つは耐震になっていて、その体育館に集合して、後は皆が各々電車やバスの時間に合わせて帰りました。」

●当日の夜は？

▶尚さん「その日の夜は会社で宴会の予定があったんです。地震で宴会自体は中止になりましたが、皆で食べ物を持ち寄るという集まりで、その準備をしていたので、食べ物だけは沢山ありました。」

▶孝子さん「皆で台所で反射式のストーブを囲んで暖まってましたね。土鍋でご飯を炊いて。部屋が冷えきっていて、とにかく寒くて…。」

▶ちほちゃん「テレビもないし、何もすることがなくて、ずっと宿題をしていました(笑)」

▶尚さん「ずっとラジオを聞いてました。緊急地震速報が頻繁で、ほぼその記憶しかありません。」

▶孝子さん「そうそう、灯りはイイのあるよ！って、結婚式で使ったキャンドルサービスの大きいキャンドルを使って(笑) 今後も使えそうですね(笑)」

●震災以降、何か変化はありました？

▶尚さん「非常食や防災グッズを準備しましたね。」

▶孝子さん「最近はテレビでも携帯でも地震速報がありますよね。その時の真剣さが違いますね。」

職場にいても、家族が心配だから、もう帰ろうって思います。」

▶ちほちゃん「つい先日の地震の時は、すぐストーブを消して、戸を開けて逃げる準備をしました。」

▶孝子さん「それは、お父さん(尚さん)がいつもやっていることなんですよ。それを真似たんですね(笑)」

●10年後は？

▶尚さん「皆が健康で元気でいて欲しい。それだけです。」

▶孝子さん「子どもたちは大きくなって、みんな違う場所で暮らしているんでしょうけど、いつでも連絡の取れる状態であって欲しいと思います。」

▶ちほちゃん「学力次第かなあ。」

▶りなちゃん「美容師になりたい。」

▶めいちゃん「クッキー屋さん。」

▶尚哉くん「将来、医学療法士になりたいので、大学でその勉強をします。」

【寄付総額】

2011年6月～2012年12月31日まで、『¥1,218,058』を「あしなが東日本大地震・津波遺児募金」へ寄付することができました。ご協力に感謝いたします。

toVO トヴォ
PLUS

www.tovo2011.com



NO. **011**
20130211

あおもりの100家族、わたしたちのこれから。





インタビュー

今号のご家族 ▶ 工藤 泰輝さん・沙織さん・悠ちゃん・岳琉くん・葵ちゃん

はるか たける あおい

撮影場所 ▶ 青森ベイブリッジ (青森市)

●2011年3月11日のことを憶えていますか? ▶ 泰輝さん「ちょうど妻と子どもたちは茨城の実家に里帰りしていて、家には父母と私と妹がいたんです。地震はいつもより長いあ程度でしたが、停電して、暖房も動かなくなって、1つだけ残っていた古い石油ストーブを数十年ぶりに引っ張り出してきました。みんなで居間で1枚の毛布をかぶって、そのストーブを囲んでいましたね。会話も全くな(笑)」 沙織さん「実家は茨城の南部なので、被害は酷くなかったんです。でも、食器棚から食器が落ちて割れたりという被害はありました。電車が動かなくなったので、家に遊びに来ていた友人が帰れなくなってしまっ。停電は一瞬だけで、テレビもネットも使えたので、青森の夫に何が起きているかってことを逐一メールで知らせていました。」 悠ちゃん「怖かった。ヘルメットかぶって、机の下に隠れた。おじいちゃんも、おばあちゃんも、みんなヘルメットかぶった。」 ●家族が離ればなれで不安はなかったですか? ▶ 沙織さん「茨城は余震が多くて、その度に、子どもたちが『お父さん!お父さん!』って泣いちゃって。ちょうどお腹に5ヶ月の子ども(葵ちゃん)もいましたし。茨城に残っていた方がイイような気もしたんですが、計画停電などで電車がなかなか動かない中、なんとか羽田空港まで出て、飛行機で青森まで帰りました。それが、4日後、15日ですね。」 泰輝さん「空港で会ったら、悠が全身水疱瘡で(笑)」 沙織さん「そうなんです。だから、震災の話より、そっちになってしまっ(笑)」 泰輝さん「結果的にですけど、子どもたちにとっては、停電で寒い思いをしたり、食べ物なども不便だった青森にいるよりは良かったんじゃないかなと思います。」 ●震災以降、何か変化はありました? ▶ 泰輝さん「何かを準備したりというのは特にないですね。ただ、世の中は何が起こるか分からないなっていうのをあらためて感じました。」 沙織さん「実家の母が、防災頭巾を作って送ってくれました。あと、家具の転倒防止なんかには気をつけるようになりました。子どもたちは、幼稚園で月1回避難訓練があつて、地震の時にはどうするかということを学んでいるみたいですね。」 ●悠ちゃん、幼稚園で地震があつたらどうするの? ▶ 悠ちゃん「えーと、火事の時はプレイルームに逃げて、地震の時は、机の下に隠れてから、プレイルームに集まる。」 ●10年後は? ▶ 泰輝さん「もう1人子どもがいるかもしれないですね(笑) 今と変わらず笑いの絶えない家族であつて欲しいと思います。」 沙織さん「今よりはバタバタが落ち着いているかなと思いますね。毎年、家族の健康管理を頑張ろう!って目標を立てるんですが、なかなか出来なくて…、だから、お互い痩せていて、子どもたちも健康であつたらイイなと思います。」 悠ちゃん「ケーキ屋さんかな。」 岳琉くん「車を運転する。うーん、日産のノート。」 ●終

東日本大地震・津波遺児チャリティー

tovo トヴォ

2011年6月～2012年12月31日まで

¥1,218,058

を「あしなが東日本大地震・津波遺児募金」へ寄付することができました。ご協力に感謝いたします。

【tovo/ トヴォ】は、2011年3月11日の東日本大震災によって、親を失った子どもたちを、青森から支援するプロジェクトです。チャリティーグッズを制作・販売し、その経費を除いた全ての収益を、あしなが育英会「あしなが東日本大地震・津波遺児募金」へ継続的に寄付し、青森から「あなたがたのそばにいつもいますよ」と伝え続けます。ご支援・ご協力を宜しくお願いいたします。

【代表】小山田 和正【住所】〒037-0056 青森県五所川原市東広町14-1【web】http://tovo2011.com【mail】info@tovo2011.com【twitter】@tovo2011

今号のご家族▶工藤 泰輝さん・沙織さん・悠ちゃん・岳琉くん・葵ちゃん

撮影場所▶青森ベイブリッジ (青森市)

【インタビュー】

●2011年3月11日のことを憶えてますか？

▶泰輝さん「ちょうど妻と子どもたちは茨城の実家に里帰りしていて、家には父母と私と妹がいたんです。地震はいつもより長いなあ程度でしたが、停電して、暖房も動かなくなって、1つだけ残っていた古い石油ストーブを数十年ぶりに引っ張り出してきました。みんなで居間で1枚の毛布をかぶって、そのストーブを囲んでいましたね。会話も全くなく(笑)」

▶沙織さん「実家は茨城の南部なので、被害は酷くなかったんです。でも、食器棚から食器が落ちて割れたりという被害はありました。電車が動かなくなったので、家に遊びに来ていた友人が帰れなくなってしまって。停電は一瞬だけで、テレビもネットも使えたので、青森の夫に何が起きているかってことを逐一メールで知らせていました。」

▶悠ちゃん「怖かった。ヘルメットかぶって、机の下に隠れた。おじいちゃんも、おばあちゃんも、みんなヘルメットかぶった。」

●家族が離ればなれで不安はなかったですか？

▶沙織さん「茨城は余震が多くて、その度に、子どもたちが『お父さん！お父さん！』って泣いちゃって。ちょうどお腹に5ヶ月の子ども(葵ちゃん)もいましたし。茨城に残っていた方がイイような気もしたんですが、計画停電などで電車がなかなか動かない中、なんとか羽田空港まで出て、飛行機で青森まで帰りました。それが、4日後、15日ですね。」

▶泰輝さん「空港で会ったら、悠が全身水疱瘡で(笑)」

▶沙織さん「そうなんです。だから、震災の話より、そっちになってしまって(笑)」

▶泰輝さん「結果的にですけど、子どもたちにとっては、停電で寒い思いをしたり、食べ物なども不便だった青森にいるよりは良かったんじゃないかなと思います。」

●震災以降、何か変化はありました？

▶泰輝さん「何かを準備したりというのは特にはないですね。ただ、世の中は何が起こるか分からないっていうのをあらためて感じました。」

▶沙織さん「実家の母が、防災頭巾を作って送ってくれました。あと、家具の転倒防止なんかには気をつけるようになりました。子どもたちは、幼稚園で月1回避難訓練があって、地震の時にはどうするかということを学んでいるみたいですね。」

●悠ちゃん、幼稚園で地震があったらどうするの？

▶悠ちゃん「えーと、火事の際はプレイルームに逃げて、地震の時は、机の下に隠れてから、プレ

イルームに集まる。」

●10年後は？

▶泰輝さん「もう1人子どもがいるかもしれないですね(笑) 今と変わらず笑いの絶えない家族であって欲しいと思います。」

▶沙織さん「今よりはバタバタが落ち着いているかなと思いますね。毎年、家族の健康管理を頑張ろう！って目標を立てるんですが、なかなか出来なくて...、だから、お互い痩せていて、子どもたちも健康であったらイイなと思います。」

▶悠ちゃん「ケーキ屋さんかな。」

▶岳琉くん「車を運転する。うーん、日産のノート。」

【寄付総額】

2011年6月～2012年12月31日まで、『¥1,218,058』を「あしなが東日本大地震・津波遺児募金」へ 寄付することができました。ご協力に感謝いたします。

tovo plus～あおもりの100家族、わたしたちのこれから。[season 1
(2012.3.11~2013.2.11)]

<http://p.booklog.jp/book/78857>

著者 : tovo

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/tovo2011/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/78857>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/78857>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社ブクログ